



## 瀬棚港に白鳥が訪れました

瀬棚港に1羽の白鳥が訪れました。上の写真を提供してくれた鵜入泰宏さん（本町8区）の話によると、11月18日、午前8時頃、瀬棚港に1羽の白鳥が訪れているのを見つけたそうで、白鳥は首を水中に入れて何かを食べている様子でしたが、1時間ほどで姿を消してしまったということです。また、昨年と同じ時期にも1羽の白鳥が瀬棚港に訪れていたそうです。



### 編集後記

今回は、市町村合併町民懇談会の内容をお知らせしました。ご覧のように、合併に賛成する意見はなく、単独での生き残りを求める意見が相次ぎました。国は、特例法の期限切れ後の対策として、小規模町村の権限の縮小や強制合併という、これまで以上の厳しい条件をまごころとしています。最終的にどんな内容で示されるのかはわかりませんが、こうした動きは少なからず小規模町村に影響をもたらすことになるでしょう。そして、期限切れを逆算して本格的な協議の場である協議会の設置は全国的に進むことと思われます。今回の懇談会での意見、そして町民アンケート調査の結果をもとに、瀬棚町が進むべき方向を見出したいと思います。目指すのは「キラリと光るまちづくり」です。(三)

合併をしない場合どうするか？ 確かに行政財政面での取り組みも大切ですが、懇談会の中でも説明したように、瀬棚は人の流れの玄関口、全国に誇れる地域医療の充実、安心・安全な食べ物づくり、風を生かしたまちづくり（洋上風力発電）、マリンタウンの静穏域を生かした増養殖事業、そして、ほかの町には例のない町民の健康や環境を配慮した、日本女医第一号「荻野吟子」女史の精神をさまざまなまちづくりに生かした取り組み、こうした「キラリと光る」町の特徴（優位性）を生かしていくことが、瀬棚町の大きな力となるのではないだろうか。瀬棚町の進むべき道はどれか、皆さんと考えていきたいと思えます。表紙は12月6日の吟子物語試飲会の模様です。その中でも特に美味しそうに飲んでいた二人にポーズしてもらいました。次の日は大丈夫でしたか？ あとは新年号ですね、もうひと踏ん張りです。表紙をうごかすかな。それでは皆さんよいお年を(〇)